

スポーツが有する無限のちからで地域づくりを

～人々に夢を、地域に夢を！

e n j o y ! s p o r t s ! ! ~

長野県松川町 伊藤 遼太



1. はじめに

「スポーツ」が持つ力は計り知れない。体を動かすことで健康になる、人と人をつなぐ、人やお金の流れをつくる、そしてなにより人々に、地域に夢をもたらすこともできるのだ。その「スポーツ」を職業としている人達、すなわち「プロスポーツ選手」と呼ばれる人達は、世界中で多く存在している。競技種目もサッカー、バスケット、バレー等様々で、テレビ中継等でその華やかな様子から、多くの人達に夢を与えているだろう。しかし、我々が認識しているのはいわゆる「トッププロ」で、その人達はスポーツ選手人口の中のほんの一握りなのだ。その華やかな舞台の裏で、「トッププロ」になれず、毎年多くの選手達が不本意ながらも引退しているという現実がある。サッカーだけでも年間 100 人程の選手が引退し、また選手寿命も平均 25 歳と若く、生活していくための新たなセカンドステージを模索しているのだ。セカンドステージでは、今まで人生の大半をかけて培ってきたキャリアは通用せず、誇りが打ち砕かれ、アイデンティティを喪失する感覚に陥るのである。

そのような現実がある中、もし松川町がその「素晴らしいキャリア」をもった人財の価値を高め、元プロスポーツ選手がキャリアを輝かせることができる町、すなわち居心地のよい町をつくることができれば、町はどうなるだろうか。素晴らしいキャリアが伝承され、さらにその素晴らしいキャリアは正の連鎖をもたすのではないか。スポーツ選手が集う、地元からプロスポーツ選手が誕生するなど、夢は膨らむ。

筆者はその効果に胸を躍らせ、「元スポーツ選手枠地域おこし協力制度を活用した夢のある地域づくり」として、松川町における今後の展開を考察していきたい。本レポートでは、松川町へ元スポーツ選手を「スポーツ枠地域おこし協力隊」として呼び込むために、「今までのキャリアを輝かせるまちづくり＝元スポーツ選手にとって居心地の良いまちづくり」を提言する。そのために、なぜ元スポーツ選手が必要なのかを、第 2 節～第 3 節で説明する。そしてそれを実現させるための方策を第 4 節で説明する。

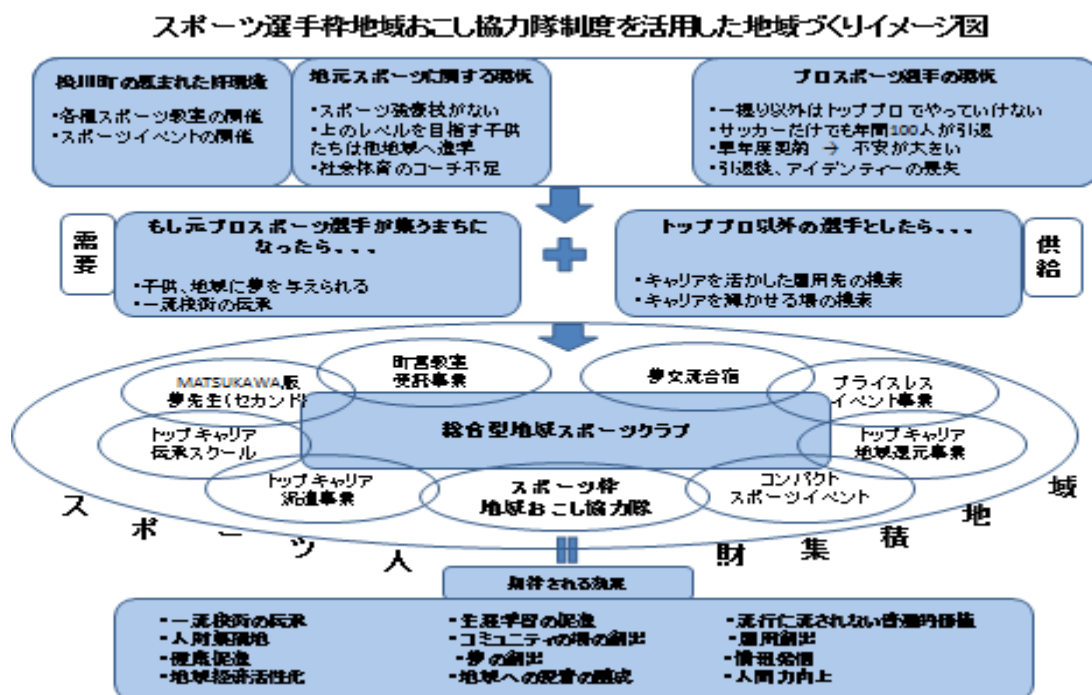


図 1：スポーツ選手枠地域おこし協力隊を活用した地域づくりイメージ図

2. もし松川町に元スポーツ選手が集ったら

(1) 「夢」の伝承

「元スポーツ選手」がまちの子ども達に指導することで、「元プロスポーツ選手」が有している一流技術が伝承され、地域のスポーツのレベルは当然上がるだろう。レベルが上がれば、当然その種目は盛り上がり、新たな競技人口も増えていく。その結果、新たな人材の発掘にもつながっていくのだ。

「元プロスポーツ選手」というキャリアが子ども達に与える影響も大きいはずだ。子ども達の夢の上位に、野球選手やサッカー選手等のスポーツ選手が常に入るという現状からみても、「夢を実現させた憧れのプロスポーツ選手」と身近に触れ合えることは、子ども達に良い刺激を与えるだろう。スポーツのレベルが上がり、新たな人材が発掘され、「夢を実現させた人」と触れ合う機会ができれば、将来、「プロスポーツ選手」を本気で目指す子ども達が増えるだろう。地元から「プロスポーツ選手」が誕生するかもしれないのだ。そうなればその親や地域は、一丸となって応援し、地域は当然盛り上がっていくはずだ。夢をもらった子ども達が、地域に更なる夢を与えてくれる可能性が大いにあるのだ。一流技術の伝承のみならず、プロの華やかさや苦労を経験したからこそその教えも、子ども達の成長や教育には大変貴重なものと考えられる。

(2) 地元への愛着の醸成

子ども達に限らず、そのキャリアは様々な世代に大きな影響を与えるはずだ。素晴らしいキャリアと新たな視点は、スポーツ関係のイベントも盛り上げるだろう。スポーツイベントは、開催地の住民が運営や関連する活動にボランティア活動という形で参加すること

によって、地域コミュニティの形成、地域アイデンティティの醸成、あるいは地域の情報発信などの働きがあると考えられる。

スポーツイベントという場を通じて、地域の人々が何か一つの目標に共に進み、交わることにより、地域コミュニティの形成につながる。自然と会話が生まれ、人と人とのつながりを生むのである。近年、地域コミュニティの崩壊が叫ばれる中で、スポーツイベントの持つこうした効果への期待は大きい。

またイベントを盛り上げる過程を共有する事により、地域に連帯感の高揚や社会的交流が生じ、そこから自然に地域への愛着が生まれるだろう。さらにイベントを成功させたという体験や実感を持つことは、地元自治体や地域住民に自信をもたらす。そして、そのイベントが全国的に誇れるものになればなるほど、地域住民の自信につながり、地域の歴史、伝統や文化を再発見し、地域全体に誇りを持つようになる。

さらにスポーツイベントを開催することは各地からの注目度を高め、地場産業や観光地のPR効果を高めていく。松川町に「元スポーツ選手」が溢れ、その人財が中心となりスポーツイベントが盛り上げていけば、PRへの波及効果も大きいはずで、地域の情報発信になる。

「元プロスポーツ選手」という人脈も、スポーツイベントに大きな影響を及ぼすだろう。松川町では毎年サッカージュニアユースのサマーキャンプを受け入れている。受入に関してはまだシステム化されておらず、毎年100人程度しか受け入れていないが、「元プロスポーツ選手」の人脈によって参加者の増加も期待できる。さらに、現役のプロスポーツ選手の来町もこうした人脈を使えば夢ではなく、現役のプロスポーツ選手を起用したイベントが実現すれば大いに盛り上がり、地域にとっても誇れるものになるだろう。

(3) 地元経済の活性化

以上のような人の動きが生じれば、必然的に経済循環や経済効果が生まれることも期待できる。スポーツ教室やスポーツイベントが「素晴らしいキャリア」によって盛り上がれば、人の流れも増え、教室の受講料やイベント参加料等の収入も増えていく。その他にも訪れてくれた人達は、地域で飲食や宿泊、お土産の購入などの消費を発生させるだろう。人の流れは地元経済を動かすのである。

(4) スポーツ人財集積地

松川町でその「素晴らしいキャリア」をもった人財の価値を高め、元プロスポーツ選手がキャリアを輝かせることができる町、すなわち居心地のよい町をつくることできれば、スポーツ選手がスポーツ選手を呼び、「スポーツ人財の集積地」に発展していくのではないかと。定住しなくとも先ほど述べたように、人脈をもとに行き交うプロスポーツ選手が増えるだけでも、効果は大きいと考える。「スポーツ人財の集積地」になれば尚更、「誇れる地域」になり、愛着もより一層強くなるだろう。多くの人が「このまちに住み続けたい」、「出て行ってもいずれはこのまちに戻ってきたい」と思うようになるのではないかと。「素晴らしいキャリア」をもった人財がもたらす影響は計り知れないのだ。

(5) 素晴らしいキャリア×普遍的価値

人が生きていく過程で「スポーツ」とは、「食べ物」や「住まい」等と比べ、絶対に必要とは限らない。「マズローの欲求 5 段階説」からみても優先順位は低い。しかし「身体を動かしたい」という本源的な欲求は存在し、それに応えて精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす「スポーツ」とは「普遍的価値」があると感じる。

スポーツは昔より親しみ続けられてきたものであり、流行に流され難い、普遍的価値を有する「もの」と捉えることができる。そこに「素晴らしいキャリア」が加われば、流行に流されない、無限の可能性を秘めた「地域づくり」を図っていけるのではないかと考える。

3. 松川町におけるスポーツに関する現状と取組

(1) 松川町のスポーツに関する現状

松川町にはスポーツに関する有名なクラブチームはなく、中学校や高校にも、全国的に有名なスポーツ強豪校はない。中学校で活躍し、高校で更なる飛躍を目指す子ども達は、地元を離れ他地域の強豪校へ進学してしまう。過去 5 年間において、平均 5 人の子ども達が他地域へ進学している現状がある。他地域へ進学することは悪いことではないが、子ども時代を過ごした地域の思い出は、その子どもがその後、地域への愛着や誇りをどの程度持てるかということに大きな影響を与えていると感じている。その時間が短くなるというのは、あまりにもったいないのではないか。

また、この地域には社会体育という活動が存在する。部活動終了後に行う延長部活動のようなものである。頻度は週に 1~3 回程度で、コーチは部活動顧問が時間外労働で対応するか、外部コーチを入れて対応している。外部コーチの場合は自身の仕事もあるため、毎回対応できず、その都度部活動顧問と対応を調整しているのだ。部活動顧問は時間外労働になり、外部コーチに関してもほぼ無償で対応するため、自身の仕事や家庭がある中で、負担が大きい。外部コーチは子ども達やスポーツへの思いからほぼボランティア状態で行っている為、後継者が安定していない。

(2) 松川町での取組

松川町にはスポーツを行う者にとって、恵まれた環境が整っている。天候に左右されない屋内人工芝スポーツ施設、南アルプスを望みながら開放的な気分で楽しめるテニスコート、年中利用できる室内温水プール、合宿を受け入れることのできる旧青年の家や廃校になった小学校、そして疲れを癒すことのできる天然温泉がある。松川町ではそれらを活用してサッカー、テニス、水泳の各種教室やサッカージュニアユースの合宿受入などを展開している。教室の登録者数、収支の状況などは表 1 を参照してほしい。テニスに関しては小規模な教室のため利用人数、収益は少ないようにみえるが、安定した流れをつくることのできている。教室規模の拡大を検討すれば、更なる人の流れをつくるのが可能であろう。サッカーに関しては日本で競技人口が最も多く人気が高いスポーツのため、潜在的に需要が高いと考えることができる。現在は屋内人工芝スポーツ施設で週 2 回のみ展開して

いるが、旧青年の家にグラウンドや体育館があり、そちらの活用も検討すれば教室の拡大はしていけるはずだ。また毎年夏に開催しているサマーキャンプは、平成 27 年より開始し、毎年 70 名程度を受け入れている。受け入れ対応に関してはまだシステム化されておらず、筆者の係 2 名で対応している。しかしこれだけの人数を受け入れられている実績が有るので、こちらも受け入れ対応のシステム化等ができれば、安定的に受け入れていけるだろう。場所も旧青年の家や廃校になった小学校を活用しており、受け入れ容量は十分にある。

この表には施設維持管理費等は含めていないため正確な収支表とはなっていないが、この教室だけでも人とお金の流れを生んでいるのではないかと感じる。何より登録者は真剣にスポーツに励み、身体を動かしながら仲間と交流を楽しんでいる。やはりスポーツは、人やお金を動かし、人と人をつなぐ役割を有しているのである。



写真 2：サッカー合宿風景

種別	定員(人)	登録者(人)	月謝収入(円)	月間謝金等支出(円)	月間収益(円)
サッカー	80	76	350,000	260,000	90,000
テニス(子ども)	18	13	56,000	44,000	12,000
テニス(大人)	10	10	55,000	22,000	33,000
水泳	200	181	550,000	270,000	280,000

表 1：各教室登録者等状況表

4. 「素晴らしいキャリア」を持った人財を迎え入れるために

「素晴らしいキャリア」を持っていながら、セカンドステージではそれを活かせずにいる人財が大勢いることには触れた。松川町はスポーツを行う者にとって恵まれた環境が整っていることにも触れた。冒頭でも述べたように、もしその「素晴らしいキャリア」もった人財を呼び込むことができれば、夢のような地域づくりを展開していけるはずだ。ここからは、「素晴らしいキャリア」をもった人財と松川町をマッチングさせるための、新たな提言をしていく。

(1) 素晴らしいキャリアを松川町へ！元スポーツ選手枠地域おこし協力隊制度

「プロスポーツ選手」を職業にしてきた人財を招き入れるため、元スポーツ選手枠として地域おこし協力隊制度を活用する。地域おこし協力隊制度の活用にあたり、「元スポーツ選手枠」という取り組みを本格的にすすめている自治体はなく、また先に述べたスポーツ選手の実情、松川町の実績、今後の展開をしっかりと示せば、実現可能だと考える。任期である 3 年間は今までのキャリアを活かして、スポーツ教室等の運営の試運転を任務とする。この制度を活用することで 3 年間ではあるが、生活していく中で大切な要素となる雇用や住まいに関する不安は取り除けるはずだ。初回の募集人数について、平成 30 年度中に 1 名とし、その後 2 年間で 3 名にまで増やしたい。競技種目は、競技人口や人気種目

や環境等を勘案し、バスケット 2 名、サッカー 1 名を予定することとする。その後の展開により異なる種目でも増員をしていきたい。初回の募集枠は、まだ松川町でスポーツ教室が展開されていないバスケットを想定している。またこの制度を活用していくに伴い、スポーツ人財受入支援員を新たに設置し、スポーツ人財の受入、定住担当者や学校関係者等とのつなぎ役、活動支援などをワンストップで行う。ワンストップで対応することにより、新天地での不安を取り除き、活動しやすい環境を整える。

(2) 元プロスポーツ選手集積クラブ！総合型地域スポーツクラブの設立

続いて、松川町の恵まれた環境を活かし総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）を立ち上げる。最終的には自立した運営を目指すのが、スタートアップに助成金が活用できるよう、総合型クラブにする。ただし、助成金ありきではなく、運営が軌道に乗るまで助成金を活用できることは、総合型クラブを自立運営させ、そして地域の財産にしていきたいと考えるなかでは重要な要素になる。安定的に運営していけば元スポーツ選手が更に集いやすくなり、セカンドステージを考えるプロスポーツ選手にとって「これまでのキャリアを輝かせることのできるクラブ」として評判を呼ぶだろう。そして何より技術の向上のみならず、「生涯学習」としての意味合いを持たせたい。それにより、下記にも述べる活動も展開していきやすいと考える。

総合型クラブの立ち上げ時期については、初回に受け入れた協力隊員の任期が、最終年となる平成 32 年度を目標とする。現在筆者の係で対応している教室のコーチは、「外部コーチ」ということでそのまま総合型へ移行することが想定される。しかし総合型クラブの予算に関しては、「生涯学習」としての意味合いを持ち合わせることから、教育委員会との調整が必要と考える。その調整を今までの実績と平成 30 年度から 3 年間の実績を踏まえて行う。

(3) キャリアを輝かすことのできるまち

「キャリアを輝かせることのできるまち」にするため、以下の活動内容を上げる。

① トップキャリア伝承スクールの開校

今までの「素晴らしいキャリア」を活かすことのできるスポーツ等の教室を展開し、一流技術等を松川町に伝承していく。元プロスポーツ選手を指導者とする教室は、一流技術に触れることとなり、スポーツのみならず地域に与える影響は大きいはずだ。そしてこの「一流技術に触れることのできる場」というものは、地域の価値を大いに高めるだろう。またここでは技術の伝承ばかりではなく、人間力向上に重きを置きたいため、「教室」というより「学校」のようなニュアンスで展開していきたいと考える。スポーツを通じて、挨拶を基本とする礼儀作法などの大切さを伝え、人間性の向上に重きをおくことで、自立した人間の育成を図っていく。一流の技術を学び、人間性が育つ「第 2 の学校」のようなイメージがつけられれば教室やクラブへの愛着がより醸成され、ひいてはクラブが所在する松川町への愛着にもつながっていくだろう。技術は当然のことながら、元プロスポーツ選手という過酷なキャリアに裏打ちされた指導は、生徒の成長に大きな影響を与えるし、また大きな夢を育むのではないか。

開校は、協力隊任期の 2 年目開始時期を一つの目安とし、残りの任期で教室のオーバーホールをしていく。バスケットの教室に関して、2 名のバスケット枠協力隊が揃い、総合型クラブを立ち上げる時には、教室登録者 70 名程度を目指したい。

② トップキャリア派遣事業

ここでは社会体育活動に対して外部コーチの派遣事業を提案する。社会体育の現状に関しては先に述べたとおりである。有料を想定しているため、部活動顧問や保護者への提案や説明等が必要になってくるが、現状と派遣する人財を勘案しても実現可能と考える。任期中は地域や関係者との顔つなぎが中心となるだろう。任期 3 年目から提案し、総合型クラブ立ち上げ後 1~2 年以内には開始していきたい。

③ トップキャリア地域還元事業

地域の園児を対象にした無料スポーツ教室、福祉施設での無料介護予防教室などを実施していく。総合型クラブの活動はほとんど有料を想定しているが、このように「一流のキャリアを無料で地域に還元する」という活動も、総合型クラブが地域に根差すには重要だと考える。こちらも任期中は地域や関係者と顔つなぎが中心となり、総合型クラブを立ち上げた後に開始していきたい。

④ まつかわ夢先生

「夢先生」とは JFA (ジャパンフットボールアソシエーション) こころのプロジェクトの一環で、様々な競技の現役、OB、OG のスポーツ選手を夢先生として学校へ派遣し、夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さを、対談などを通じて子ども達に伝える活動である。この活動を参考に「まつかわ夢先生」として展開していきたい。今までのキャリアがあるからこそ子ども達に伝えられることがあると感じるし、子ども達にもそのような機会を提供していきたい。元プロスポーツ選手という肩書を持つ人財にとっては、今までのキャリアを一際輝かせることのできる場となり、また子ども達にとってもかけがえのない経験となるだろう。対象は幼児~小学生まで、展開の場として、保育園や学校教育の一環として想定しているが、それには教育委員会との調整が必要になる。任期中に関係者との顔つなぎをし、総合型クラブを立ち上げと同時に展開していきたい。

そして「まつかわ夢先生セカンドステージ」として、プロ選手にはセカンドステージがある事、スポーツ以外でも夢を持つこと大切さ、またスポーツ以外の夢でも、それに向けて努力すること大切さを伝えていく活動も展開したい。この活動こそ、プロスポーツ選手として積み上げたキャリアと、その後のキャリアがあるからこそ展開できることである。「まつかわ夢先生」と差別化を図る為、対象者は中学生~高校生とする。これらの活動も有料を想定しており、子どもの教育に町が投資する、という流れをつくりたい。

⑤ コンパクトスポーツイベント・体験プログラムの企画・実施

地域資源を活用したコンパクトスポーツイベントや体験プログラムの企画等を行っていくものである。ここでいう地域資源とは松川町の「人・自然・建物」等の全てを指し、コンパクトとしたのは、町内の地域資源で展開していきたいからである。ここで参考になるのが、岐阜県飛騨市の NPO 法人神岡・町づくりネットワークが展開している「レールマウ

ンテンバイク事業」である。廃線になった神岡鉄道を地域資源と捉え、保存・活用し、鉄軌道上を自転車で走行するという内容で、利用者も参加者も年々増加している。また北海道で開催されている「国際スポーツ雪かき選手権」にも触れておくべきだろう。地域では厄介ものである雪を逆転の発想から観光資源として捉え、交流人口の増加を図っている取り組みである。

今までのキャリアを活かしながら新たな視点で松川町を掘り下げ、松川町全体を活用したイベントや体験プログラムを展開できれば、町に更なる賑わいが出てくるだろう。そして松川町民が、自分の地域を見直すきっかけにもなるのではないかな。人の流れができれば、経済循環も生まれる。体験プログラムに関しては直接的な収入となるし、町がイベントを委託するという形をとれば、受託収入も入ってくる。「総合型クラブが人を呼び、町がお金を出す」という流れをつくれば、単に補助金ではないお金が得られるのである。

このイベントは任期 1 年目から検討して行ってほしい。当然、いきなりというわけにはいかないので、協力隊員が地域に入り、松川町を知りはじめてから動き出すだろう。

⑥ プライスレスイベント事業

「元スポーツ選手」が今まで築き上げてきた人脈等を活かして、スポーツ観戦のイベントを開催していく。新しく開校する教室の子ども達や、地域の小中学生を主な対象とした。トッププロの試合を目の当たりにすることは、地元クラブチームが無い松川町民にとって新鮮な体験となるだろうし、なにより子ども達に夢を与えられるだろう。このイベントの実現には、「元スポーツ選手」として今までのキャリアで築き上げてきた人脈が不可欠と考える。ライスレスイベントが実現すれば、子ども達はその人財が今まで培った「素晴らしいキャリア」を再認識し、地域内でその人財の価値が高まっていくだろう。開催頻度は総合型クラブを立ち上げた後から、年 1 回程度を見込む。任期中は準備期間と捉えて良いだろう。

⑦ 夢交流合宿受入事業

「元スポーツ選手」が今までの築き上げてきた人脈を活かしてその種目の合宿の受け入れをしていく。今まで築き上げてきた人脈は、新たな受入種目を開拓するだろう。また上記でも述べたように、受け入れに関してはまだシステム化していないため、安定的に展開していけるようシステム化していきたい。具体的には、合宿プランに関する事、食事の提供に関する事、寝具に関する事が主である。決まった合宿のプランを数種類用意できれば、こちらのその都度の負担も減るはずだ。松川町では平成 29 年度、8 月中の 5 泊の間で 167 名、1 泊平均 30 名を受け入れている実績がある。主な合宿施設である旧青年の家の収容人数は、90 名程度であることから、ハード面からみた受け入れ数にはまだ余裕がある。こちらは任期中に調整し、任期終了後から本格的に展開してほしい。

現在のこの事業は他地域の子ども達と、松川町の子ども達との交流事業にもなっており、双方に良い刺激が生じ、子ども達の未来にも良い影響を与えていると考える。また「合宿受入先に元プロスポーツ選手がいる」という付加価値がつくと、夢のような合宿になるのではないかな。

⑧町営教室受託事業

現在、保健福祉課が展開している介護予防事業の一環として、ノルディックウォーク教室があり、これを筆者の係で受託している。週 1 回の教室を通年で行っており、受託収入は年間 160 万円程度である。これを参考に各課へ働きかけ受託事業を増やしていければ、安定的な収入が見込めるはずだ。行政的にも「元プロスポーツ選手」が教室の指導者をしてくれるという事は、話題性に富むだろう。更なる展開には委託側のタイミングもあるので、任期中に行政関係者との顔つなぎや提案をしていきたい。

(4) 自立運営していけるクラブを目指して

以上の事業を中心に、総合型クラブの収支試算と予定表を図 2 のとおりまとめてみた。これは協力隊任期 1 年目から 6 年目までの収支試算である。具体的な数字は参考資料 1~3 を参照してほしい。当初 3 年間は人件費がかからないため、この期間に土台を築き上げていきたい。6 年目は 3 名の協力隊任期が終了することで、人件費が膨らみ試算収益は減少するが、総合型クラブ内で雇用が完結できている。これはあくまで試算だが、今までの松川町の実績をもとに「素晴らしいキャリア」をもった人財と連携していけば、十分実現可能と考える。このように自立運営できるクラブになれば、更なる雇用の可能性も広がっていく。冒頭でも述べた、スポーツ選手がスポーツ選手を呼び込める受け皿が整い、「スポーツ人財の集積地」を目指していけるのである。元スポーツ選手が集うまちを想像してみしてほしい。夢のようなまちではないか。

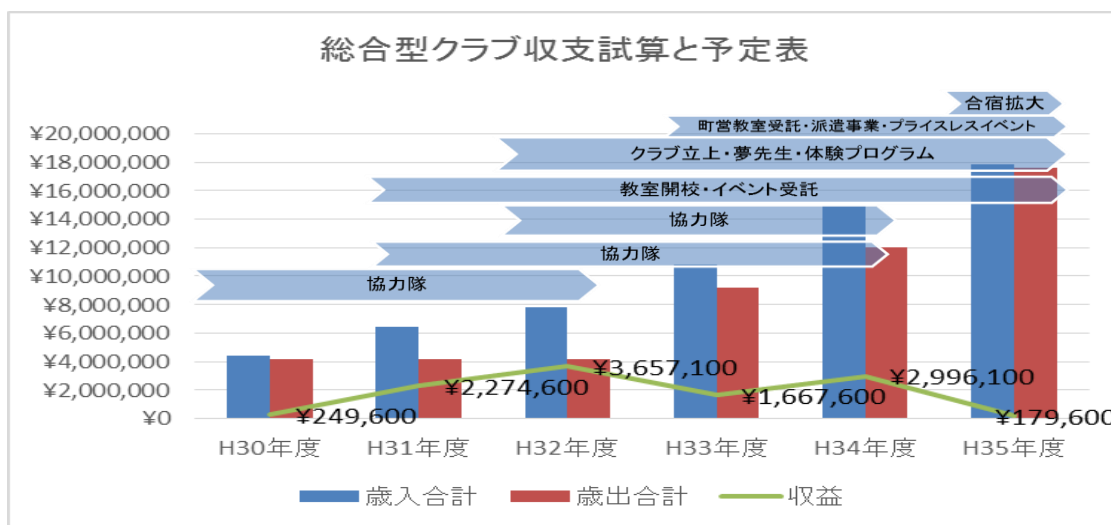


図 2：総合クラブ年度別収支試算 & 予定表

5. おわりに

スポーツは老若男女・地域内外問わず、だれもが一緒に楽しみ、またそれが人々や地域にもたらす影響は大きなものであると考える。

筆者の保育園の頃の夢は野球選手、小学生の頃はバスケット選手になりたいというものがあった。子どもの話に偏ってしまうが、スポーツを積極的にやってきた人なら、「プロス

「スポーツ選手になる」という夢を持ったことは、誰しも一度はあるだろう。筆者も子どもの頃にテレビで見たスポーツ選手に憧れ、友人達と練習励んだものだ。その友人達と練習した日々の中で喜怒哀楽の様々な感情が思い返させるが、この思い出こそが地元への誇りや愛着につながるきっかけだと思っている。

スポーツに取り組んでいる人の大きな目標は、「その種のスキルを磨いて、試合や大会で勝ちたい」というところが殆どであろう。目標はそれで良いと思う。ただその目標に向かう過程で、他人との交流を通じてかけがえのない経験をしていくのである。その過程に、「素晴らしいキャリア」と「一流技術」を持った人財が加われば、生まれる相乗効果は計り知れない。先にも述べたが、「スポーツ」というものは生きていく中で必ずしも必要ではないと思う。しかし、「スポーツ」は人と人をつなげ、かけがえのない経験のきっかけをつくってくれるものである。夢も与えてくれる。筆者は「スポーツ」が有している無限の可能性を信じて、そしてこのレポートを「ただのレポート」で終わらせず、「地域づくりのスタート」とすることを宣言して、このレポートの執筆を終えたい。

(参考文献)

- I. D. D. WORKS ホームページ <https://www.playmaker.jp/dantai/index.php>
(2017. 10. 28)
- 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/004.htm
(2017. 10. 28)
- JFA ホームページ
http://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/teacher/a.html
(2017. 10. 28)
- 『Jリーグにおけるキャリアの転機』 高橋 潔 重野 弘三郎 (2010)
- 『Jリーガーにみる日本のセカンドキャリア問題－修学レベルに関して』 大場卓次 (2013)
- 『持続可能なスポーツ都市戦略 ～観光・まちづくりの核としてのスポーツ振興～』 原田 宗彦 (2016)